

# 予防の産業保健活動を展開 健康で退職できる職場を!

東レ株式会社岐阜工場 健康相談室

保健師 宮川 敬子さん



地域保健の保健師から、職域の保健師に転身した宮川敬子さん。職場では予防に重点を置いた産業保健活動を展開する一方で、職場の外では企業の枠を超えた産業保健担当者の研究会「インダストリアル・ナーシング会」の会長を務める。職場で、地域で、多忙な日々を送る宮川さんを、突き動かすものとは――。

ポリエステルフィルム・ルミラーをはじめ、衣料や家具、自動車内装材など幅広い分野で使用される人工皮革・エクセーヌなどの生産を担う東レ(株)岐阜工場。岐阜県大垣市からほど近い神戸町に、町内を流れる揖斐川に寄り添うように立地する。

「学生の頃は企業保健師を目指していましたが、当時は保健師を採用する企業はほとんどありませんでした」と語るのは、同工場の健康相談室に保健師として勤務する宮川敬子さん。地元自治体に保健師として勤務し、長く地域の保健活動に従事していたが、約10年前に同工場の保健師に転身した。「学生の頃からの夢がようやくかないました」と、たった1人の保健師として従業員の健康管理をはじめとする産業保健活動に取り組んでいる。その一方で、職場の外でも活躍中だ。

宮川さんは現在、岐阜産業保健推進センターが母体となって15年ほど前に発足した「インダストリアル・ナーシング会」の会長を務める。同会は、地域の企業37社の保健師や看護師、労務担当者など計48人から構成される、産業保健活動従事者らによる自主的な研究組織。それぞれの職場での悩みや課題などを共有し、情報交換や自主研修などを実施することで、地域の産業保健活動のレベルアップに大きく貢献している。

さて、宮川さんが同工場に勤務して最初に取り組んだのが、自社の取り組みである予防に重点を置いた産業保健活動。それまで同工場では、産業医と看護職が勤務していたが、「私が勤務し始めたころは、室内に注射器などもありました」(宮川さん)と、健康相談室の仕事は診療部分もあったよう。宮川さんは、地域保

健での経験から、職域でも予防的な保健活動が可能と確信。そのための第一ステッ

プとして位置付けたのが健康診断の受診率の向上だ。

まず、定期健康診断について、安全衛生組織の会議で健康管理の重要性を説明することで事業場のトップである工場長自らが全従業員に対して受診を呼びかけるようになり、受診率100%が達成された。

次に手がけたのが、定期健診で発見された有所見者に対する二次検査の受診率の向上。二次検査の意義や必要性などを文書にまとめ、管理職に理解を求めると組織に対して働きかけを要請した。その結果、当初は2割を切っていた受診率が現在は9割強に向上した。

このように健診による有所見者の把握と、これらの方に対する早期の適正治療への移行により、同工場の有所見者の割合は50%台から40%台に減少した。

しかし、宮川さんの取り組みは、これだけでは終わらない。まず、従来から実施されていた入社時教育項目の一つに、“健康教育”の導入を会社に要請し採用され、以来、これら教育において食生活やメンタルヘルス、健康管理などについての教育が実施されるようになった。

また、宮川さんは入社してすぐに「安全衛生だより」の発行を開始。平均月1回のペースで発行される“たより”には毎号、定期健診やインフルエンザ・風邪予防、熱中症の予防法など、時宜にかなったテーマ・話題を取り上げるなど、従業員の安全に対する健康管理意識の高揚に一役買っている。

これらの取り組みによって、「管理職の理解と協力が得られるようになりました」と微笑む宮川さん。

上司や組織の協力を得ることで産業保健の展開を図る宮川さんの活動は、多くの従業員の理解を深めることに成功したようだ。

「活動の定着が目下の目標」と抱負を語る宮川さんだが、真の願いは“すべての従業員が健康で退職を迎えること”のようだ。

## 会社概要

東レ株式会社 岐阜工場  
設立：昭和46年(前身は昭和42年)  
従業員数：約520人(関係会社を含む)  
所在地：岐阜県安八郡神戸町  
大字安次900-1